

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（生活交通確保維持改善計画に基づく事業）

令和 8年 1月 7日

協議会名：上田市公共交通活性化協議会

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回（又は類似事業）の 事業評価結果の反映状況		④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 （特記事項を含む）	
		共通事項	特記事項				
上田バス株式会社	【運行系統名】 信州上田医療センター線 （上田駅～ 信州上田医療センター）	1.運転手確保の取組 ・運転手確保のため、以下の取組を実施した。 ①「バスの運転体験ができる会社説明会」の開催 ・真田自動車学校にて、実際のバス車両の運転体験及び現役運転手プレゼンを実施した。 ・計3回開催し、参加者は30名。うち2名が就職。 ※これまでで計61名参加、5名採用。 ②「運転手希望者向け移住相談会」の実施 ・東京交通会館にて、移住交流推進課と連携し、上田市に移住希望があり、かつ公共交通の運転手への就職を希望している方を対象に相談会を実施した。 ・R6.2月に開催。参加者は4名。 2.利用促進の取組 ・バスの乗り方や停留所の位置がわからないという理由から、公共交通の利用を避けている方も一定数いる。そのような方にバスを使用していただき、輸送人員を増加させる、また、利便性向上を図り、現在の利用者のバス離れを防ぐことを目的に以下の取り組みを実施した。 ①まちのバス大集合の開催 ・市内4バス事業者がそれぞれの車両を持参し展示等を行ったほか、NPOバス保存会所有のボンネットバス乗車体験等の体験型イベントも実施。 ・R7.4月に開催し、1,239名が参加。 ②夏休みキッズバスの実施 ・R7.7月23日から8月22日までの31日間実施。 ・市内在住の小学生以下の児童に夏休み期間中無料で公共交通を利用できる「キッズバス」を配布。 ・補助金対象路線の実績は以下のとおり。 ◆信州上田医療センター線：12回 ◆塩田線：24回 ◆上田市街地循環バス（赤バス・青バス）：47回 ◆久保林線：15回 ③七タバスの実施 ・将来の公共交通の担い手である保育園児を対象に七タバスを実施。 ・園児に将来の夢を記載いただき、路線バス車内に設置。その後、園周辺を周遊する乗車体験を行った。 ・なお、真田保育園、いずみ幼稚園、傍陽保育園、菅平保育園の4園で実施した。 ④うえだ鉄道まつりへの参加 ・R6.10月に開催された鉄道祭りへ参加し、車両展示やグッズ販売を行った。	・働き方改革及び運転手不足に起因し、R6.4月に減便が実施された。【20便減】 （土曜運行便数36便から16便）	A	計画に位置された事業は適切に実施された。	C	【目標】 ①.利用者数「23,090人」以上 ②公的資金投入額（市支出額）を5,007千円の維持。 ③収支率31.66%の維持。 【実績】 ①利用者数「21,842人」となり 未達成 であった。【昨年度実績：25,437人】 ②公的資金投入額（市支出額）5,286千円となり、 未達成 であった。 ③収支率は24.8%であり、 未達成 であった。 【考察】 ・減便の影響及び、上田看護学校の閉校、コロナ禍の生活様式の変化によるお見舞客の減少により、利用者数が減少していると推察する。 ・物価高騰及び運転手の給与等の処遇改善による運行経費増加によって、公的資金投入額の増加、収支率の悪化につながった。 ・本路線は運行回数が非常に充実した路線であるため、EBPMの観点から利用者のニーズの掘り起こしを図れるような路線再編（上田市街地循環バス等との統合）を検討し、利用者増加につなげる。 ・運転手確保に向け、引き続き会社説明会等を継続実施する。
	【運行系統名】 塩田線 （上田駅～別所温泉）	3.利便性向上の取組 ①路線再編の検討 ・運転手不足等に起因し、路線廃線も検討されたが、利用者の潜在ニーズの掘り起こしを目的に、生活施設への乗り入れ等を含めた路線再編を協議し、路線の維持確保に努めた。 ・また、利用者のみならず運転手の労働環境の向上（休憩、水分などの補給、トイレ等の確保）の観点も含め、再編の検討を行った。 4.適切な運賃の収受に向けた取組（収支率改善へ向けて） ①ゾーン制運賃導入に向けた検討 ・平成25年から実施している運賃低減施策により、2度の消費税増税や昨今の物価高騰分が運賃に反映されておらず、収支率悪化・公的資金投入額増加の原因となっていた。 ・そのため、新たにゾーン制運賃を導入し、5年をかけて適切な運賃額を設定し、収支率を改善するよう協議を行った。 ※学生への負担軽減のため、定期券料金は据え置き ②不正乗車対策 ・定期券の不正利用等を撲滅するため、車内へ注意喚起ポスターを設置するとともに、不正乗車が発覚した際のマニュアルを整備し、適切な対応ができる環境整備を行った。	・働き方改革及び運転手不足の影響により路線廃止も検討された。 ・しかし、他路線との統合での仕業数を削減や生活、観光施設をめぐる形への路線再編を協議し、路線の確保維持を図った。 （R7.10路線再編実施）	A	計画に位置された事業は適切に実施された。	A	【目標】 ①.利用者数「9,134人」以上 ②公的資金投入額（市支出額）を9,200千円の維持。 ③収支率8.93%の維持。 【実績】 ①利用者数「12,247人」となり 達成 することができた。【昨年度11,227人】 ②公的資金投入額（市支出額）8,859千円となり、 達成 することができた。 ③収支率は10.0%であり、 達成 することができた。 【考察】 ・本路線は上田千曲高校生やさくら国際高校生の通学手段として欠かせない路線であり、R6.4月に減便が行われた後も、学生利用が増加したことにより、利用者数目標を達成することができた。 （通学定期券利用者数がR5.988人からR6.1,352人へ増加） ・R7.10月から、通勤通学需要に対応するため、朝夕はこれまで通りの運行を実施し、利用者が減少する昼間は塩田地域の生活施設、鉄道駅及び観光施設を結ぶ循環運行へとして路線再編を行った。 ・住民からは生活施設乗り入れについて好評であるが、実際の利用者数の推移をモニタリングしつつ、より利便性の高い路線の実現に向けた改善を継続していく。 ・また、昼間の循環運行便は観光需要が非常に高いため、鉄道駅との接続について考慮したダイヤ設定を継続して行う。 ・運転手確保に向け、引き続き会社説明会等を継続実施する。
	【運行系統名】 上田市街地循環線 （青バス 東回り） （上田駅～染谷丘高校～上田駅）	3.利便性向上の取組 ①路線再編の検討 ・運転手不足等に起因し、路線廃線も検討されたが、利用者の潜在ニーズの掘り起こしを目的に、生活施設への乗り入れ等を含めた路線再編を協議し、路線の維持確保に努めた。 ・また、利用者のみならず運転手の労働環境の向上（休憩、水分などの補給、トイレ等の確保）の観点も含め、再編の検討を行った。 4.適切な運賃の収受に向けた取組（収支率改善へ向けて） ①ゾーン制運賃導入に向けた検討 ・平成25年から実施している運賃低減施策により、2度の消費税増税や昨今の物価高騰分が運賃に反映されておらず、収支率悪化・公的資金投入額増加の原因となっていた。 ・そのため、新たにゾーン制運賃を導入し、5年をかけて適切な運賃額を設定し、収支率を改善するよう協議を行った。 ※学生への負担軽減のため、定期券料金は据え置き ②不正乗車対策 ・定期券の不正利用等を撲滅するため、車内へ注意喚起ポスターを設置するとともに、不正乗車が発覚した際のマニュアルを整備し、適切な対応ができる環境整備を行った。	・働き方改革及び運転手不足に起因し、R6.4月に減便が実施された。【1便減】 （土曜運行便数9便から8便）	A	計画に位置された事業は適切に実施された。	B	【目標】 ①.利用者数「13,734人」以上 ②公的資金投入額（市支出額）を12,547円の維持。 ③収支率12.14%の維持。 【実績】 ①利用者数「16,641人」となり 達成 することができた。【昨年度実績：14,068人】 ②公的資金投入額（市支出額）13,518千円となり、 未達成 であった。 ③収支率は12.2%であり、 達成 することができた。 【考察】 ・8時10分上田駅発の便は上田東高校及び上田染谷丘高校を経由するため、多くの学生が乗車している。 ・上田染谷丘高校については、以下の2点から利用者が増加していると推察される。 ①他路線の最寄り停留所が遠方に設置され、かつ坂を上る必要があるが、本路線の停留所は高校の目の前に設置されている。 ②運賃について学生は100円と他路線より安い設定がなされている。 （平日の減便が行われなかったことも要因） ・また、沿線にある専門学校長野ビジネス外語カレッジの生徒数が近年増加しており、通学に本路線を利用いただいていることも利用者数増の要因であると推察する。 ・物価高騰及び運転手の給与等の処遇改善による運行経費増加によって、公的資金投入額の増加につながった。 ・本路線は上田染谷丘高校、上田東高校（利用数は少ないが上田西高校も）の通学に欠かせない路線であり、かつ観光施設も経由するため、EBPMの観点から利用者のニーズの掘り起こしを図れるような路線再編（信州上田医療センター線等との統合）を検討し、利用者増加につなげる。 ・運転手確保に向け、引き続き会社説明会等を継続実施する。

	【運行系統名】 上田市街地循環線 (赤バス 西回り) (上田駅～西上田駅～ 上田駅)					【目標】 ①利用者数「10,078人」以上 ②公的資金投入額(市支出額)を 13,339円の維持。 ③収支率11.14%の維持。 【実績】 ①利用者数「11,898人」となり 達成することができた。【昨年度 10,543人】 ②公的資金投入額(市支出額) 13,732千円となり、未達成であっ た。 ③収支率は10.4%となり、未達成 であった。 【考察】 ・本路線は上田東高校及び上田 染谷丘高校を経由するため、多く の学生が乗車している。 ・上田染谷丘高校については、以 下の2点から利用者が増加してい ると推察される。 ①他路線の最寄り停留所が遠方 に設置され、かつ坂を上る必要が あるが、本路線の停留所は高校 の目の前に設置されている。 ②運賃について学生は100円と他 路線より安い設定がなされてい る。 (平日の減便が行われなかったこ とも要因) ・沿線にある専門学校長野ビジネ ス外語カレッジの生徒数が近年増 加しており、通学に本路線を利用 いただいていることも利用者数増 の要因であると推察する。 ・物価高騰及び運転手の給与等 の処遇改善による運行経費増加 によって、公的資金投入額の増 加、収支率の悪化につながった。	・本路線は上田染谷丘高校、 上田東高校(利用数は少ない が上田西高校も)の通学に欠 かせない路線であり、かつ観 光施設も経由するため、 EBPMの観点から利用者の ニーズの掘り起こしを図れる ような路線再編(信州上田医 療センター線等との統合)を 検討し、利用者増加につなげ る。 ・運転手確保に向け、引き続 き会社説明会等を継続実施 する。
	【運行系統名】 上田市街地循環線 (赤バス 東回り) (上田駅～染谷丘高校～ 上田駅)						
	【運行系統名】 久保林線 (上田駅～国分寺駅前～ 久保林公民館前)					【目標】 ①利用者数「1,850人」以上 ②収支5.35%の維持。 ※上田市からの支出なし 【実績】 ①利用者数「2,106人」となり 達成することができた。【昨年度 実績:2,269人】 ②収支率は2.6%であり、未達成 であった。 【考察】 ・利用者数について目標数値を達 成することができたが、減便の影 響もあり、前年度からは減少傾向 である。 ・物価高騰及び運転手の給与等 の処遇改善による運行経費増加 によって、公的資金投入額の増 加、収支率の悪化につながった。	・R7.10月より路線を再編し、 多くの商業施設や診療所など を結び、地域住民の買い物 需要を満たす形へ変更した。 ・今後、利用者数の経過をモ ニタリングし、より利便性の高 い路線とする。 ・本路線は上田東高校前に 停留所が設置されているにも 関わらず、通学需要に対応し たダイヤが設定されていない ため、今後運転手数なども考 慮しつつ、より利便性の高い ダイヤへの修正を行う。 ・運転手確保に向け、引き続 き会社説明会等を継続実施 する

千曲バス株式会社	【運行系統名】 室賀線 (下秋和～小泉～入組)	<p>1.運転手確保の取組 ・運転手確保のため、以下の取組を実施した。 ①「バスの運転体験ができる会社説明会」の開催 ・真田自動車学校にて、実際のバス車両の運転体験及び現役運転手プレゼンを実施した。 ・計3回開催し、参加者は30名。うち2名が就職。 ※これまでで計61名参加、5名採用。</p> <p>②「運転手希望者向け移住相談会」の実施 ・東京交通会館にて、移住交流推進課と連携し、上田市に移住希望があり、かつ公共交通の運転手への就職を希望している方を対象に相談会を実施した。 ・R6.2月に開催。参加者は4名。</p> <p>2.利用促進の取組 ・バスの乗り方や停留所の位置がわからないという理由から、公共交通の利用を避けている方も一定数いる。そのような方にバスを使用していただき、輸送人員を増加させる、また、利便性向上を図り、現在の利用者のバス離れを防ぐことを目的に以下の取り組みを実施した。</p> <p>①まちのバス大集合の開催 ・R7.4月に開催し、1,239名が参加。 ・市内4バス事業者がそれぞれの車両を持参し展示等を行ったほか、NPOバス保存会所有のボンネットバス乗車体験等の体験型イベントも実施。</p> <p>②夏休みキッズバスの実施 ・R7.7月23日から8月22日までの31日間実施。 ・市内在住の小学生以下の児童に夏休み期間中無料で公共交通を利用できる「キッズバス」を配布。 ・補助金対象路線の実績は以下のとおり。 ◆室賀線: 12回</p> <p>③小学生対象バスの乗り方教室の実施 ・将来の公共交通の担い手である小学生を対象にバスの乗り方教室をR6.11月に川西小学校で実施。</p> <p>④路線バス車内への季節に応じた飾りつけ実施 ・地域の学生にバス車内へ季節に応じた飾りつけを行っていただくことで、路線バス利用者楽しんでいただくと共に、参加した生徒等の利用促進へつなげる。 ・R6.10月にハロウィン飾りつけ実施(上田高校)。 ・R6.12月にイルミネーション飾りつけ実施(丸子中学校)。</p>	A	計画に位置された事業は適切に実施された。	C	<p>【目標】 ①利用者数「29,943人」以上 ②公的資金投入額(市支出額)を4,605千円の維持。 ③収支率28.31%の維持。</p> <p>【実績】 ①利用者数「28,492人」となり 未達成であった。【昨年度実績: 29,943人】 ②公的資金投入額(市支出額) 6,218千円となり、未達成であった。 ③収支率は21.2%であり、未達成であった。</p> <p>【考察】 ・室賀線については減便が実施されていないが、少子高齢化により沿線人口が減少傾向にあり、利用者数の目標値が達成できなかったと推察する。 ・その他、送迎が増加している可能性もある。 ・物価高騰及び運転手の給与等の処遇改善による運行経費増加によって、公的資金投入額の増加、収支率の悪化につながった。</p>	・路線沿線に設置されている学校等での乗り方教室を始め、企業等への利用促進も実施していく。 ・運転手確保に向け、引き続き会社説明会等を継続実施する
	【運行系統名】 室賀線 (房山～小泉～入組)	<p>⑤地元高校文化班の作品を展示したギャラリーバスの実施 ・地域の高校と連携し、生徒の作品をバスに設置することで、バスが地域に根付いていることをPRすることに加え、通学の際にバスを利用いただくきっかけづくりとする。 ・R7.3月に上田高校、R7.8月に上田千曲高校にて実施。</p> <p>⑥うえだ鉄道まつりへの参加 ・R6.10月に開催された鉄道祭りへ参加し、車両展示やグッズ販売を行った。</p> <p>3.利便性向上の取組 ①路線再編の検討 ・運転手不足等に起因し、路線廃線も検討されたが、利用者の潜在ニーズの掘り起こしを目的に、生活施設への乗り入れ等を含めた路線再編を協議し、路線の維持確保に努めた。 ・また、利用者のみならず運転手の労働環境の向上(休憩、水分などの補給、トイレ等の確保)のい観点も含め、再編の検討を行った。</p> <p>②座談会による意見聴取 ・公共交通の主要な利用者である高校生を対象に座談会形式での意見聴取を行った。 ・なお、一部意見についてはR7.10月のダイヤ改正に反映 ・R7.3月に上田高校、R7.8月に上田千曲高校にて実施。</p> <p>4.適切な運賃の収受に向けた取組(収支率改善へ向けて) ①ゾーン制運賃導入に向けた検討 ・平成25年から実施している運賃低減施策により、2度の消費税増税や昨今の物価高騰分が運賃に反映されておらず、収支率悪化・公的資金投入額増加の原因となっていた。 ・そのため、新たにゾーン制運賃を導入し、5年をかけて適切な運賃額を設定し、収支率を改善するよう協議を行った。 ※学生への負担軽減のため、定期券料金は据え置き</p> <p>②不正乗車対策 ・定期券の不正利用等を撲滅するため、車内へ注意喚起ポスターを設置するとともに、不正乗車が発覚した際のマニュアルを整備し、適切な対応ができる環境整備を行った。</p>					

※上田市地域公共交通計画との整合を図るため、目標値、実績値ともに会計年度の数値を利用している。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和 8年 1月 7日

協議会名:	上田市公共交通活性化協議会
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>上田市におけるバス路線の集積点は上田駅であり、上田駅を中心として、放射線状に、また、市域内に広範に、路線バス、委託バス、デマンド交通等により構成される公共交通機関網が広がっている。</p> <p>これらの地域公共交通は、市民の日常生活機能を担う高校、市街地中心部の総合病院や診療所などの各種医療機関、大規模ショッピングセンターなどの商業施設等へ各地域から市街地に向かう唯一の手段として、車を運転できない学生、高齢者等を中心に、生活に必要不可欠な交通として機能しているが、人口減少や自家用車の普及等により、利用者は減少しており、収支悪化による行政負担の増加をはじめとして運行に様々な問題が発生している。</p> <p>かつては自主運行していたものの、収支の悪化により存続困難になっている上田バス(株)が運行する塩田線、信州上田医療センター線、千曲バス(株)が運行する室賀線は、塩田・川西地域の住民の通院・買い物を中心とした生活に不可欠な路線として存続が必要なため、地域公共交通確保維持事業により塩田線、信州上田医療センター線、室賀線の確保・維持を図りたい。</p> <p>上田市街地循環バスは、市街地の公共施設、商業施設などの拠点施設等を結び、市民の通学や通院、買い物、また、観光利用も含めた市街地の回遊性向上を目的として運行しており、本事業による路線の維持・確保を図りたい。</p> <p>平成28年10月から運行を開始した上田バス(株)の久保林線は、他路線バスの停留所までのアクセスに時間がかかる人口集積地の久保林地区と上田駅を結ぶ生活に必要な交通として、また、中心市街地の活性化を図るため、存続が不可欠である。</p> <p>上田市は、同年12月に、まちづくりと連携し、公共交通ネットワークを一体的に形づくり、持続させることを目的に地域全体の公共交通ネットワークシステムの在り方などを定めた「上田市公共交通網形成計画」を作成した。本計画の期間終了後には、地域公共交通の活性化及び再生に関する法律の一部改正などを踏まえて、「上田市地域公共交通計画」を令和5年9月に策定した。また、利便性の向上により、将来に向かって地域公共交通を確保・維持するため、「上田市・青木村地域公共交通利便増進実施計画」を策定し、令和7年9月に国の認定を受けた。</p> <p>今後についても、上田市は、地域公共交通は社会インフラとして必要不可欠との認識のもと、引き続き地域公共交通の利便性の向上、生産性の向上及び持続可能性の向上を図っていく。</p>

地域内フィーダー系統確保維持改善計画

令和6年6月5日

(名称) 上田市公共交通活性化協議会

1. 地域公共交通確保維持事業に係る目的・必要性

上田市におけるバス路線の集積点は、上田駅となっており、市域内に広範に路線バス、コミュニティバス、デマンド交通等により構成される公共交通機関網が広がっている。

これらの公共交通については、市街地中心部の総合病院をはじめとする教育機関、公共施設、医療機関及び大規模ショッピングセンター等が当市民の日常生活機能を担う中で、各地域からのバス路線が市街地に向かう唯一の手段として、車を運転できない高齢者や高齢者等を中心に、生活に必要な不可欠な交通として機能している。

しかしながら、人口減少と自家用車の普及により、当市の公共交通機関の利用者は減少傾向にあり、バス事業者の収支悪化による行政負担の増加をはじめ、運行に様々な問題が発生している。

持続可能なまちづくりの実現に向けては、公共交通は、都市の骨格となる基幹的な交通軸を形成していく必要があり、市民生活に不可欠な移動手段の役割を担うとともに、多様な暮らし方と働き方を支える基盤的な社会インフラであり、都市の持続性や幅広い社会課題の解決のために重要な役割と価値を有すると考える。

その中で、幹線系統は都市機能集積拠点と生活複合拠点の間を、一定水準以上の高いサービスレベルで結ぶものであり、市内各地域から上田駅周辺の市街地への移動の役割を担い、また、フィーダー系統は生活複合拠点の中やその先を、効率的に結ぶものであり、幹線バスが運行していない区域を中心に運行し、交通接結点等において幹線バスや鉄道に接続する役割を担っている。

信州上田医療センター線は、拠点である上田駅から周辺部の居住地や、信州上田医療センター等の生活必需施設を連絡する近距離の路線であり、地域の移動手段としての役割を担っており、市内外からの利用者が多い。起終点の上田駅前では、他モードや地域内交通への接続により広域への移動も可能とするなど、幹線系統を補完する欠かせない路線である。一方で、自治体や事業者の運営努力だけでは路線の維持が難しく、地域公共交通確保維持事業により運行を確保・維持する必要がある。

塩田線は、生活複合拠点の塩田地域の居住地や、塩田病院、Aコープしおだ等の生活必需施設や上田千曲高校を連絡する路線であり、通勤通学をはじめ地域の移動手段としての役割を担っており、起終点の上田駅前では、他モードや地域内交通への接続、また、別所温泉駅、塩田町駅では上田電鉄別所線との接続により広域への移動も可能とするなど、幹線系統を補完する欠かせない路線である。一方で、自治体や事業者の運営努力だけでは路線の維持が難しく、地域公共交通確保維持事業により運行を確保・維持する必要がある。

久保林線は、神川地域の居住地や、イオン上田等の生活必需施設を連絡する路線であり、通勤通学をはじめ地域の移動手段としての役割を担っており、起終点の上田駅前では、他モードや地域内交通への接続、また、信濃国分寺駅ではしなの鉄道線との接続により広域への移動も可能とするなど、幹線系統を補完する欠かせない路線である。一方で、自治体や事業者の運営努力だけでは路線の維持が難しく、地域公共交通確保維持事業により運行を確保・維持する必要がある。

室賀線は、生活複合拠点の川西地域の居住地や、アリオ上田、室賀温泉等の生活必需施設や川西小学校を連絡する路線であり、通勤通学をはじめ地域の移動手段としての役割を担っており、起終点の上田駅前では、他モードや地域内交通への接続、また、上田原駅では上田電鉄別所線との接続により広域への移動も可能とするなど、幹線系統を補完する欠かせない路線である。一方で、自治体や事業者の運営努力だけでは路線の維持が難しく、地域公共交通確保維持事業により運行を確保・維持する必要がある。

上田市街地循環バス（赤バス・青バス）は、中心市街地の公共施設をはじめ、信州上田医療センターや上田東、上田染谷丘、上田西といった高校の生活拠点施設等を結び、観光的な利用も含めた回遊性向上を目的として運行しており、通勤通学をはじめ地域の移動手

段としての役割を担っており、起終点の上田駅前では、他モードや地域内交通への接続により広域への移動も可能とするなど、幹線系統を補完する欠かせない路線である。一方で、自治体や事業者の運営努力だけでは路線の維持が難しく、地域公共交通確保維持事業により運行を確保・維持する必要がある。

2. 地域公共交通確保維持事業の定量的な目標・効果

(1) 事業の目標

【上田バス株】

(信州上田医療センター線)

- ・利用者数を 23,090 人以上【直近年度の実績（令和 5 会計年度）25,437 人】とする。
- ・公的資金投入額（市からの支出）5,007 千円の維持を目標とする。
（運賃低減バス負担金 507,173 円+廃止代替 4,500,000 円=5,007,173 円）
- ・直近年度（令和 5 会計年度）の収支率 31.66%を維持する。

(塩田線)

- ・利用者数を 9,134 人以上【直近年度の実績（令和 5 会計年度）11,227 人】とする。
- ・公的資金投入額（市からの支出）9,200 千円の維持を目標とする。
（廃止代替 9,200,000 円=9,200,000 円）
- ・直近年度（令和 5 会計年度）の収支率 8.93%を維持する。

(久保林線)

- ・利用者数を 1,850 人以上【直近年度の実績（令和 5 会計年度）2,269 人】とする。
- ・直近年度（令和 5 会計年度）の収支率 5.35%を維持する。
※上田市からの支出なし

(上田市街地循環バス・赤バス)

- ・利用者数を 10,078 人以上【直近年度の実績（令和 5 会計年度）10,543 人】とする。
- ・公的資金投入額（市からの支出）13,339 千円の維持を目標とする。
（令和 5 会計年度委託料）
- ・直近年度（令和 5 会計年度）の収支率 11.14%を維持する。

(上田市街地循環バス・青バス)

- ・利用者数を 13,734 人以上【直近年度の実績（令和 5 会計年度）14,068 人】とする。
- ・公的資金投入額（市からの支出）12,547 千円の維持を目標とする。
（令和 5 会計年度委託料）
- ・直近年度（令和 5 会計年度）の収支率 12.14%を維持する。

【千曲バス】

(室賀線)

- ・利用者数を 29,943 人以上【直近年度の実績（令和 5 会計年度）29,943 人】とする。
- ・公的資金投入額（市からの支出）4,605 千円の維持を目標とする。
（廃止代替 4,605,000 円=4,605,000 円）
- ・直近年度（令和 5 会計年度）の収支率 28.31%を維持する。

(上田市地域公共交通計画 P25.26 参照)

※多くの路線が令和 6 年度から減便となることを鑑み、減便後も令和 5 年度の実績を維持するよう目標を設定

（計算方法：令和 6 年度運行回数÷令和 5 年度運行回数×令和 5 年度輸送人員）

※上田市地域公共交通計画との整合を図るため、数値は会計年度を使用する。また、評価時は令和 6 年度の実績値を用いることとする。

※公的資金投入額については国庫補助金の補助額により変動する場合がある。

(2) 事業の効果

【塩田線】

塩田線を維持することにより、西塩田地区の交通不便地域の日常生活に必要な不可欠な移動手段が確保される。また、上田電鉄別所線塩田町駅等と接続することにより、効率的な運行体系が実現できる。さらには、外出促進・地域活性化にもつながる。

【信州上田医療センター線】

上田駅及び地域間幹線系統と上田市の中核拠点病院である信州上田医療センターを効率的に結び、病院通院者および周辺住民の利便性を図る。

【室賀線】

室賀線を維持することにより、川西地域の交通不便地域の日常生活に必要な不可欠な移動手段が確保される。また、上田駅と接続することにより、効率的な運行体系が実現できる。さらには、外出促進・地域活性化にもつながる。

【上田市街地循環バス】

市街地循環バスを運行することにより、周辺住居地域と市街地主要施設を結び、中心市街地への買い物需要や病院・高校等への通院・通学の利便性を確保し、また上田駅等と接続することにより、観光振興の視点を踏まえた効率的な運行体系が実現できる。

【久保林線】

久保林地区住民からの要望を踏まえ、公共交通空白地帯の久保林地区と上田駅を結ぶ生活交通としての足を確保することにより、地域住民の外出促進、中心市街地の活性化につながる。

3. 2. の目標を達成するために行う事業及びその実施主体

- (1) 安定的な路線運行の継続及びサービスレベルの維持（上田市公共交通活性化協議会、バス事業者）

※ 上田市地域公共交通計画 (P28)

- (2) 運賃低減バスの運行継続及び利用促進に向けた周知・PRの徹底（上田市公共交通活性化協議会、バス事業者）

※ 上田市地域公共交通計画 (P33)

- ・通学定期券購入の負担軽減について、高校入学を控えた中学3年生や在学中の高校生に対し、通学利用促進チラシを作成のうえ配布し、通学利用増加に向けた周知を徹底
- ・高校における通学定期出張販売窓口の設置

- (3) 利用者に応じたわかりやすい公共交通の案内、情報発信（上田市公共交通活性化協議会）

※ 上田市地域公共交通計画 (P35)

- ・路線図、時刻表の配布
- ・上田駅と大屋駅に設置している乗継案内表示板のダイヤ変更等に合わせた適宜修正による正確な情報提供
- ・TicketQRによる割引率の高いマイレールチケットQRやプリペイド券の販売

- (4) バスの乗り方教室等の開催（上田市公共交通活性化協議会、バス事業者）

※ 上田市地域公共交通計画 (P37)

【保育園、幼稚園、小学校における乗り方教室】

- ・幼少期から公共交通（バス）とふれあい、親しむ機会の創出
- ・TicketQRを利用した乗車体験による、キャッシュレス化やデジタル化に触れる機会の創出
- ・大規模商業施設等との連携・協力による、多くの方々が参加できるイベントの開催

【高齢者に対する乗り方教室】

- ・ 高齢者サロン等におけるバスの乗り方教室の開催
- ・ バスの乗り方教室に合わせた「お買い物ツアー」の実施や、各地域から路線バスや循環バスを利用した「お出かけプラン」の提案によるバス利用が可能であることの周知
- ・ 関係機関等との連携による、高齢ドライバーによる重大事故防止のための安全講習の実施及び運転免許証自主返納と併せた事故防止のための啓発

【その他】

- ・ 近隣の保育園（幼稚園）児や文化団体の作品を飾ったギャラリーバスの運行
- (5) 小学校の夏休み期間中に、小学生以下を無料とする「キッズパス企画」を実施（上田市公共交通活性化協議会・バス事業者）
- ※ 上田市地域公共交通計画 (P37)
- ・ 家族でのバス利用を促し、公共交通の役割や重要性等について理解を深め、親しんでもらうとともに、将来の利用促進につなげていく。
- (6) 利便性向上に向けたサービスや機能の充実（上田市公共交通活性化協議会・バス事業者）
- ※ 上田市地域公共交通計画 (P38)
- ・ キャッシュレス化
 - ・ ロケーションシステム（現在位置情報）の有効活用
 - ・ G T F S データ整備とオープンデータ化
- (7) 商業施設等との連携による一定額以上のお買い物で乗車券進呈サービスの実施（交通事業者）
- ※ 上田市地域公共交通計画 (P40)

4. 地域公共交通確保維持事業により運行を確保・維持する運行系統の概要及び運送予定者

表 1 のとおり

5. 地域公共交通確保維持事業に要する費用の総額、負担者及びその負担額

地域公共交通確保維持事業によって運行の維持を図る信州上田医療センター線・塩田線・久保林線・上田市街地循環バス・室賀線について、その運行に係る費用総額 93,166 千円（前年度実績から試算）のうち、上田市から運行事業者への補助金額については、運行収入及び国庫補助金を運行経費から差し引いた差額分を負担することとしている。（一部対象外あり）

※費用総額は会計年度の数値を使用。

6. 2. の目標・効果の評価手法及び測定方法

- ・ 利用者数や収支について、数値指標によるモニタリング・評価を実施

7. 別表 1 の補助対象事業の基準木ただし書に基づき、協議会が平日 1 日当たりの運行回数が 3 回以上で足りると認めた系統の概要

【地域間幹線系統のみ】

※該当なし

8. 別表 1 の補助対象事業の基準二に基づき、協議会が「広域行政圏の中心市町村に準ずる生活基盤が整備されている」と認めた市町村の一覧 【地域間幹線系統のみ】
※該当なし
9. 生産性向上の取組に係る取組内容、実施主体、定量的な効果目標、実施時期及びその他特記事項 【地域間幹線系統のみ】
※該当なし
10. 地域公共交通確保維持改善事業を行う地域の概要 【地域内フィーダー系統のみ】
表 5 を添付。
11. 車両の取得に係る目的・必要性 【車両減価償却費等国庫補助金・公有民営方式車両購入費国庫補助金を受けようとする場合のみ】
※該当なし
12. 車両の取得に係る定量的な目標・効果 【車両減価償却費等国庫補助金・公有民営方式車両購入費国庫補助金を受けようとする場合のみ】
(1) 事業の目標
※該当なし
(2) 事業の効果
※該当なし
13 車両の取得計画の概要及び車両の取得を行う事業者又は地方公共団体、要する費用の総額、負担者とその負担額 【車両減価償却費等国庫補助金・公有民営方式車両購入費国庫補助金を受けようとする場合のみ】
※該当なし
14. 老朽更新の代替による費用の削減等による地域公共交通確保維持事業における収支の改善に係る計画（車両の代替による費用削減等の内容、代替車両を活用した利用促進策） 【公有民営方式車両購入費国庫補助金を受けようとする場合のみ】
※該当なし
15. 貨客混載の導入に係る目的・必要性 【貨客混載導入経費国庫補助金を受けようとする場合のみ】
※該当なし
16. 貨客混載の導入に係る定量的な目標・効果 【貨客混載導入経費国庫補助金を受けようとする場合のみ】
(1) 事業の目標
※該当なし
(2) 事業の効果

※該当なし	
17. 貨客混載の導入に係る計画の概要、要する費用の総額、内訳、負担者及び負担額【貨客混載導入経費国庫補助金を受けようとする場合のみ】	
※該当なし	
18. 協議会の開催状況と主な議論	
令和3年6月1日	佐久上田線の廃止について承認
令和3年11月22日	豊殿地区自主運行循環バス（あやめ号）の廃止について承認
令和4年1月7日	書面協議による協議会を開催し、上田市生活交通確保維持改善計画（フィーダー系統）の事業評価について承認
令和4年5月25日	地域間幹線系統確保維持計画、上田市生活交通確保維持改善計画、運賃低減バス運行計画等について承認
令和4年7月29日	書面協議による協議会を開催し、オレンジバス東塩田コースの認可・廃止（一部路線）、上田草津線（特急湯畑号）の特殊割引運賃について承認
令和4年9月28日	書面協議による協議会を開催し、上田草津線（特急湯畑号）の運行回数、及び時刻の変更について承認
令和4年11月16日	書面協議による協議会を開催し、道路形状の変更に伴う認可（廃止）申請について承認
令和5年2月1日	書面協議による協議会を開催し、上田草津線（特急湯畑号）の国道144号（鳴岩橋）開通に伴う認可申請について承認
令和5年2月27日	書面協議による協議会を開催し、上田市生活交通確保維持改善計画（フィーダー系統・バリア解消）の事業評価、上田市街地循環バス（青バス東コース）・信州上田医療センター線・塩田線のダイヤ改正について承認
令和5年3月16日	書面協議による協議会を開催し、信州上田レイライン線・西丸子線のダイヤ改正について承認
令和5年6月7日	地域間幹線系統確保維持計画、上田市生活交通確保維持改善計画等について承認
令和5年9月14日	上田市地域公共交通計画（素案）について承認
令和5年12月25日	上田市生活交通確保維持改善計画（フィーダー系統）の事業評価について承認、上田草津線の運休について報告
令和6年2月7日	市内バス路線の減便、また、減便に伴う地域間幹線系統確保維持計画、および上田市生活交通確保維持改善計画（地域内フィーダー系統確保維持計画）の変更について承認
令和6年3月19日	書面協議による協議会を開催し、上田草津線（特急湯畑号）の運休期間延長、オレンジバス（東塩田コース）の停留所名変更、長久保線の減便について報告
令和6年6月5日	地域間幹線系統確保維持計画、上田市生活交通確保維持改善計画等について承認（予定）
19. 利用者等の意見の反映状況	
路線ごとに利用啓発を図るとともに、住民からの要望を踏まえたダイヤ変更等の改善を行いながら利用人員の増加を図り、路線の維持確保につなげていく。	

【本計画に関する担当者・連絡先】

(住 所) 上田市大手1丁目11番16号

(所 属) 上田市都市建設部交通政策課

(氏 名) 木角 圭汰

(電 話) 0268-23-5011

(e-mail) kotu@city.ueda.nagano.jp

注意： 本様式はあくまで参考であり、補助要綱の要件を満たすものであれば、この様式によらなくても差し支えありません。

実際の計画作成に当たっては補助要綱等を踏まえて作成をお願いいたします。

各記載項目について、地域公共交通利便増進実施計画及び地域旅客運送サービス継続実施計画を作成している場合には、当該計画から該当部分を転記したり、別添〇〇計画△節のとおり、等として引用したりすることも可能です。(ただし、上記2.・3.については、地域公共交通利便増進実施計画及び地域旅客運送サービス継続実施計画に定める目標、当該目標を達成するために行う事業及びその実施主体に関する事項との整合性を図るようにして下さい。また、地域公共交通計画全体として、協議会における協議が整った上で提出される必要があります)。

※該当のない項目は削除せず、「該当なし」と記載して下さい。